

御嶽山国定公園（仮称）

指定書

（環境省案）

令和 8 年 月

環境省

目 次

1 指定理由	1
2 地域の概要	3
(1) 景観の特性	3
ア 地形、地質	3
イ 植生・野生生物	3
ウ 自然現象	4
エ 文化景観	4
(2) 利用の現況	5
(3) 社会経済的背景	6
ア 土地所有別	6
イ 人口及び産業	6
ウ 権利制限関係	7
3 公園区域	9

1 指定理由

本国定公園は、長野県と岐阜県の県境にそびえる御嶽山とその周辺地域から成る地域である。御嶽山は約 78 万年前から活動している火山で、現在も活発な噴気活動を伴う活火山の独立峰である。その直下には太平洋プレートとフィリピン海プレートの 2 つのプレートが沈み込んでおり、これらのプレートの沈み込みによってマグマ噴火が繰り返された珍しい火山である。火山としては、富士山に次ぐ標高（3,067m）を誇る。

また、山頂周辺はカルデラや火山湖等の火山地形や、周氷河地形等の特徴的な地形が広がっており、一ノ池から五ノ池の「池」の名称がついた5つの火口や、^{さい}賽の河原と呼ばれる直径約900mの火口原が確認される。これら窪地は南北方向に連なり分布し、山頂域は南北（約3.2km）に長く、景観も多様である。その中でも三ノ池は標高2,720mに位置する日本最高所の湖と言われており、瑠璃色に澄んだ池の水は、「御神水」として崇められている。^{けんがみね}劍ヶ峰、^{ままははだけ}繼母岳、^{ままこ}繼子岳、^{だけ}摩利支天山、^{まりし}玉瀧^{てんやま}、^{おうたきちょうじょう}飛驒^{ひだ}頂上^{ちょうじょう}の6つの峰を有し、頂上の劍ヶ峰は、その遠方及び山麓からの眺望景観の雄大さから、かつて山麓の人々から「王の御嶽」と尊称された。

火山斜面には、かつてのマグマ噴火による溶岩流の中に渓谷や美麗な滝が連続して成立しているほか、昭和59年の長野県西部地震による大崩壊の跡（御嶽崩れ）が現存している。火山作用により形成された独特な火山地形が各所に認められ、これらは各噴火口から流出した溶岩や爆発、陥没などの自然現象によって作られ、御嶽山がもつ変化に富んだ景観の特性を際立たせる重要な要素となっている。

御嶽山は 5,000 年以上前に噴火し、その後の風雨による浸食作用により、溶岩や火山灰が現在の山腹を形成している。そのため、山腹は急斜面に大岩が転がる転石地と緩斜面の平坦地が組み合わさって構成されている。

さらに、このような地形、地質に起因して、山頂付近ではオンタデ、ハイマツ、コマクサを始めとした高山植物群落が広がり、ライチョウやオコジョ等の希少な種の生息地が成立している。御嶽山の南側は急傾斜地で、北側は比較的平坦地であり、高山帯から標高が下がるに連れてコメツガ、シラビソ等の発達した亜高山帯針葉樹林の原生林に移行する。岐阜県側の亜高山帯針葉樹林は、大規模な自然林が発達する場所として日本ではほぼ最南端に位置している。この原生林では、地形や土壤の違いにより、異なる規模の自然攪乱が発生している。転石地では根の定着が弱いため風倒が起こりやすく、大規模な攪乱が発生しやすい。一方、平坦地では老木の枯死による小規模な攪乱が主に見られる。これらの規模の異なる攪乱により形成されるギャップでは、環境条件に応じた樹種の世代交代が進行し、林冠が維持されている点が特徴的である。さらに、御嶽山の亜高山帯は周囲の山域と隔絶され、孤立した環境を形成しているため、ここで見られる森林の構造や遷移過程は、気候変動下における生態系の応答を理解する上で重要な研究対象となるとともに、貴重な生態系の保全にも資するものである。なお、植物分布の特徴として、国内分布最西端にあたるオサバグサ生育地が一部の林床に見られる。山麓には針葉樹の植林が広く見られ、特にヒノキ、サワラ、ネズコ、アスナロ、コウヤマキは「木曽五木」として知られており、その一部は樹齢300年を超える大木として残っている。

御嶽山を靈峰として仰ぎ称え、登拝、修行を行う信仰形態は現在も地域に息づいており、登山道を中心として各所に靈神碑や石仏等が分布している様は、自然と人の営みとが結びついた文化景観として高い価値を有している。

また、御嶽山は、降水量が多いことや、火山地質が分布することから地下浸透量が多いこと、

豊かな森林を有していることから、水源涵養機能という重要な役割を果たしており、防災面に加え、人々の暮らしに欠かせない水資源を育んでいる。

以上のように本国定公園は、火山性孤峰を始めとする火山活動に起因した地形、地質を基盤とし、その上に植生の垂直分布による連続的かつ原生的な自然林生態系が成立する風景を風景形式としており、我が国における優れた自然の風景地となっている。

また、本国定公園のテーマを「雄大な山の姿と多彩な自然と人の祈りが織りなす山岳景観」とし、雄大な火山地形に起因する自然とそこに息づく人々の信仰による利用の歴史を感じができる国定公園として、次世代へ継承していくものである。

なお、「国立公園及び国定公園の候補地の選定及び指定要領（平成 25 年 5 月 17 日付け環自国発第 1305171 号環境省自然環境局長通知）」に記載される国定公園の候補地の要件のうち、上記で述べた景観の要件以外の項目については、以下のとおりである。

① 規模（区域面積が原則として約 1 万 ha 以上）

本国定公園の区域面積は、28,275ha である。

② 自然性（原生的な景観核心地域が原則として約 1,000ha 以上）

本国定公園の原生的な景観核心地域は、長野県と岐阜県の県境となる御嶽山の山頂付近一帯のほか、岐阜県のオサバグサ生息地とハイマツ群落飛地があり、その区域面積は 1,701ha である。

③ 利用（多人数による利用が可能）

平安、鎌倉、室町時代に興った山岳信仰の修験道を起源とし、江戸時代に一般民衆に対して山への立ち入りが許可されて以降、現在に至るまで信仰登山が継続されている。加えて、一般登山客にも広く親しまれ、多くの来訪者を惹き付けている。さらに、山麓ではキャンプ、滝巡り、高地トレーニング、スキーといった多様なアクティビティを楽しむことが可能である。

④ 地域社会との共存（地域社会の理解の獲得）

本国定公園の大部分は、長野県の御岳県立公園と、岐阜県の御嶽山県立自然公園に指定されていた範囲である。御岳県立公園は主に御嶽山における山岳信仰や各種の利用形態を理由として昭和 27 年に指定され、御嶽山県立自然公園は山麓まで広がる火山地形や高標高で成立する原生的な自然環境、自然景観を理由として平成 11 年に指定されている。その後、長野県及び岐阜県のそれぞれに設置された地域会議が連携して、国定公園化に向けた協議が実施してきた。

上記のとおり、関係者での活発な議論や関係地方公共団体への同意を得ることにより、地域社会の理解の醸成が図られている。

2 地域の概要

(1) 景観の特性

ア 地形、地質

御嶽山は成層火山であり、約78万年前からの火山活動によって形成され始め、約10万年前からの火山活動によって現在の姿が形成された。その基盤は主にジュラ紀美濃帯の付加体堆積物からなり、御嶽山の北部、東部、南東部に広く分布する。西方には白亜紀後～古第三紀の濃飛流紋岩類が存在し、その上を新第三紀鮮新世の地蔵峠安山岩類や上野玄武岩類、丹生川火碎流堆積物が薄く覆っている。5,000年以上前の噴火によって、溶岩、火山灰、噴石が一帯を覆い、この時できた基質が風雨で浸食され、現在の山腹を形成しているため、山腹は急斜面に大岩が転がった転石地と緩斜面の平坦地の組合せで形成されている。

山頂部には剣ヶ峰や継子岳などの峰があり、それらの間には一ノ池から五ノ池までの火口が南北方向に直線状に並び、いずれも円形から橢円形を呈している。また、火山体の斜面は全体的に平滑であり、特に三ノ池火口から噴出した三ノ池溶岩流によって形成された溶岩斜面は、大きな畝状の尾根や並行する溝状の窪みが特徴的である。さらに、賽の河原周辺や地獄谷の源頭部では、小規模な水蒸気爆発によって形成された小火口が密集している。

御嶽山の山頂付近では、過去の火山活動に起因するダイナミックな地形変化に加え、構造土等の周氷河地形が残存している。火山の噴火による地形の変化は多様で、火山灰や溶岩流が複雑な起伏を生み出しており、その中でも火口湖については、残雪が映り込む清澄な水面を持つ点が特徴である。

御嶽山では、山頂部及び河川沿いに多くの崩壊地が見られる。特に濁河川上流や継母岳の西側、南側では大規模な崩壊地が発達しており、これらの崩壊によって下流部に火山麓扇状地や台地が形成されている。また、四ノ池火口東部から剣ヶ峰東部や剣ヶ峰西南部の地獄谷周辺でも大崩壊地が存在し、地獄谷やその南側の大崩壊地では、溶岩層と思われる崖が連続的に発達している。

御嶽山の西側には約5万4千年前の噴火による溶岩流が現存し、その長さは約15kmに達する。その先端に位置する柱状節理「巖立」（がん立て）は岐阜県の天然記念物に指定されている。溶岩流の上には滝が多数存在しており、その中でも根尾滝は落差63mもの岩壁を流れ落ちる様から、日本の滝百選に選出されている。

イ 植生・野生生物

御嶽山は大きな山体で地形も複雑であることから、全体として植物の種類も多く、オンタデ、オサバグサ、クモマグサ、キソイチゴ、イワツツジ等、分類、分布上特殊な種類も見られる。このうち、オンタデは亜高山帯から高山帯にかけての砂礫地など、他の植物が生育しにくい過酷な環境下に生育する多年草で、御嶽山で初めて確認されたことに由来してその名が付けられた。また、亜高山帯に生えるオサバグサは、国内分布最西端にあたり、岐阜県高山市的一部地域にその個体群の生育が確認されている。オサバグサ生育地の植生は、高木層はシラビソ、オオシラビソ、トウヒ、コメツガ、ダケカンバ等により構成され、それらの発達した樹冠ゆえに低木層の植被率は10～20%程度と低い。草本層ではオサバグサ、カニコウモリ、バイカオウレン等が優占する。

植生については、森林限界以上の高山帯にはハイマツ林やコマクサやオンタデ等が生育す

る高山荒原、アオノツガザクラやガンコウラン等が生育する雪田植物群落が分布している。コマクサは7～8月に美しい桃色の開花を見せる事から「高山植物の女王」と称されており、江戸時代末期には薬草として採取され、御嶽山のコマクサは「御神草」の1つとして珍重してきた。

森林限界以下の標高1,600～2,400mには、内陸中央部に位置する独立峰という地理的要因により、コメツガ、シラビソ等が混生した亜高山帯針葉樹林の原生林が広がる。この原生林は、周囲の山域と隔離され、孤立した環境を形成しているため、ここで見られる森林の構造や遷移過程は、気候変動下における生態系の応答を理解する上で重要な研究対象となっている。岐阜県側では大径のオオシラビソとシラビソが、長野県側ではトウヒとコメツガを中心となり非常に発達した林冠を形成している。これらの樹種群の分布は、地理的要因や気候条件、土壤要因に基づく攪乱態様に関係しており、御嶽山の亜高山帯林は樹種構成と立地の関係から、森林の連続性を知る上で重要な場所である。

湿性地として、御嶽山山頂付近の四ノ池周辺や田の原の高層湿原がある。四ノ池周辺は、火口底に流水もあって湿地が広いため湿生植物も多く、チングルマ、キバナシャクナゲ、ハクサンイチゲ及びクモマグサ等の高山植物が見られる。田の原の高層湿原には、カワズスゲ、ダケスゲ、ミタケスゲ、モウセンゴケ、ミヤマミズゴケ、ワラミズゴケ等が生育し、低木のハクサンシャクナゲが混じる。

河川域には山地帯自然植生が見られ、溪流沿いの急崖にはヒノキなどの自然性の高い針葉樹林が残存している。また、御嶽山では古くから林業が営まれていることから、山麓には針葉樹の植林が広く見られる。特に、ヒノキ、サワラ、ネズコ、アスナロ、コウヤマキの「木曽五木」は、江戸時代において尾張藩の「停止木制度」により保護されたことから、その一部が、樹齢300年を超えた大木となって残り、現在は木曽谷の名産品としても木材利用されている。

ウ 自然現象

本国定公園は日本海側気候と太平洋側気候との接点であり、内陸性を帶びている。年平均気温は標高1,500mで8℃程度、年降水量は2,000mm以上、最大積雪深は150cm以上である。降水量が多いことから御嶽山には豊かな水が一年中存在しており、木曽川水系の源流域として下流部の中京圏の水瓶の役割を果たしている。

冬季には雪をまとった美しい独立峰の姿を麓から確認できるほか、最低気温が-10℃から-20℃にまで冷え込むことから、一部の滝では氷瀑を見ることができる。

また、御嶽山は有史以降も火山活動が継続している活火山であり、時折噴煙が上がっている様子を観察することができる。昭和59年には長野県西部地震により発生した山体崩壊である「御嶽崩れ」が発生し、平成26年には多数の犠牲者を出した水蒸気噴火が起きており、防災の観点からも御嶽山の火山活動は注視されている。

エ 文化景観

御嶽山は独立峰であり、古来より地域のシンボルであるとともに信仰の対象となっている。702（大宝2）年の開山後、平安時代に修行としての登山が行われるようになって以降、1785（天明5）年には尾張の行者である覚明により黒沢口が、1792（寛政4）年には江戸の行者

である普寛により王滝口が開かれると、修驗道を基盤として、民衆が主体となった民間信仰が生まれた。その後、御嶽山の山岳信仰は全国的に広まり、現在は関東、東海地方にも信仰が根付いている。

山頂付近には奥社を始め、登山道沿いの神社や社務所など多くの宗教施設が点在している。また、王滝村に位置する ^{きよたき}清滝、^{しんたき}新滝は、古くから御嶽山を信仰する行者が登拝する際に必要とされる百日間の精進潔斎する行場のほか、登拝前に身を清める庶民の修行場としても位置付けられていた。さらに、本国定公園内及びその周辺には靈神碑や石仏など、多数の石造物が現存している。王滝口、黒沢口の登山口両側には多数の靈神碑群が点在しているほか、麓の ^{ひ わ だ こ う げ ん}日和田高原では 52 か所の石仏を巡るコースがあり、これらの石仏のほとんどが御嶽山の方向を向いていることが地域全体の山岳信仰の強さを証明している。

更に御嶽山の麓では、火山活動を背景に温泉が湧出している。岐阜県下呂市の濁河温泉は標高 1,800m に位置する火山性の温泉で、明治 20 年ごろに登山者の宿地として開拓されたと言われており、通年営業する温泉街としては日本でも有数の高所温泉地である。

(2) 利用の現況

本国定公園の利用形態として、山岳信仰に始まった登山が大きな特徴として挙げられる。登山については現在、黒沢口、王滝口、開田口、胡桃島口、日和田口、小坂口を主な登山口として夏季を中心に多くの人々が利用している。

また、登山以外の利用形態として、山麓でのキャンプやスキーで利用がされており、その他においては美麗な滝資源を活用した滝巡りツアーや、高標高を活用した高地トレーニングエリアとしての利用もされている。

本国定公園の関係市町村の観光入込客数は次のとおりである。いずれの市町村においても、新型コロナウィルスの感染拡大を受けて令和 2 年には客数が落ち込んだが、近年は回復傾向にある。

表 1 観光入込客数 (単位 : 百人)

都道府県	市町村	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
長野県	木曽町	9,848	7,281	8,290	10,716	11,470
	王滝村	1,633	1,095	858	913	1,090
岐阜県	高山市	69,888	35,762	32,488	47,535	59,503
	下呂市	22,854	13,702	12,180	17,073	18,298

(出典：「観光地利用者統計調査結果（長野県）」、「岐阜県観光入込客統計調査（岐阜県）」)

(3) 社会経済的背景

ア 土地所有別

本区域は、公園区域 28,275ha（陸域）のうち、国有地 23,552ha（83.3%）、公有地 1,420ha（5.0%）、私有地 3,303ha（11.7%）であり、本区域全体に占める国有地の割合が大きい。

イ 人口及び産業

本国定公園における各市町村の人口及び産業別就業者数は次のとおりである。

いずれの市町村においても少子高齢化の傾向が見られるほか、卸売、小売業等による第3次産業の就業比率が高い。

表2 人口

（単位：人、%、戸）

都道府県	市町村名	総人口数	15歳未満		15～64歳		65歳以上		総世帯数
			人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比	
長野県	王滝村	715	41	5.7	365	51.0	309	43.2	371
	木曽町	10,584	917	8.7	5,200	49.1	4,467	42.2	4,680
岐阜県	高山市	84,419	10,554	12.5	45,703	54.1	28,162	33.4	32,748
	下呂市	30,428	3,264	10.7	14,811	48.7	12,353	40.6	11,686
合計		126,146	14,776	11.7	66,079	52.4	45,291	35.9	49,485

（出典：「令和2年国勢調査（総務省統計局）」）

※端数処理のため、構成比の合計は必ずしも100%にならない

表3 産業別就業者数

（単位：人、%）

都道府県	市町村名	就業者 総数	第1次産業		第2次産業		第3次産業	
			人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
長野県	王滝村	415	49	11.8	54	13.0	312	75.2
	木曽町	5,706	437	7.7	1,269	22.2	4,000	70.1
岐阜県	高山市	47,610	4,992	10.5	10,678	22.4	31,940	67.1
	下呂市	15,968	835	5.2	4,632	29.0	10,501	65.8
合計		69,699	6,313	9.1	16,633	23.9	46,753	67.1

（出典：「令和2年国勢調査（総務省統計局）」）

※端数処理のため、構成比の合計は必ずしも100%にならない

ウ 権利制限関係

(ア) 保安林

(国有林)

種類	位置	重複面積 (ha)	指定年月日
水源かん養	長野県木曽郡王滝村地内	10,147	昭 35. 12. 9
	長野県木曽郡木曽町地内	2,936	昭 44. 2. 6
	岐阜県高山市地内	1,987	昭 35. 2. 3 昭 46. 3. 26
	岐阜県下呂市地内	6,795	昭 34. 3. 31 昭 45. 3. 31
土砂流出防備	長野県木曽郡木曽町地内	991	昭 32. 12. 20
保健	長野県木曽郡王滝村地内	515	昭 53. 1. 7
	岐阜県高山市地内	519	昭 55. 6. 27 昭 55. 12. 18
	岐阜県下呂市地内	1,283	昭 55. 12. 18

(民有林)

種類	位置	重複面積 (ha)	指定年月日
水源かん養	長野県木曽郡王滝村地内	129	平 23. 1. 12
	長野県木曽郡木曽町地内	318	昭 30. 4. 20 昭 33. 11. 26 昭 44. 2. 6 平 48. 10. 22
	岐阜県下呂市地内	185	昭 48. 12. 12
土砂流出防備	長野県木曽郡王滝村地内	8	昭 11. 10. 30
	長野県木曽郡木曽町地内	5	大 18. 4. 9 昭 47. 8. 17 令 12. 7. 13
	岐阜県下呂市地内	275	明 31. 1. 1 昭 26. 4. 30 昭 44. 9. 18 平 18. 9. 11
土砂崩壊防備	岐阜県下呂市地内	125	昭 33. 11. 15 平 13. 1. 11 平 15. 3. 24 平 17. 3. 22

(イ) 鳥獣保護区 (県指定)

名称	位置	重複面積 (ha)	指定年月日
王滝	長野県木曽郡王滝村内	5,178	昭 58. 11. 1
御岳	長野県木曽郡木曽町内	2,774	昭 58. 11. 1
御嶽	岐阜県下呂市内、高山市内	1,420	昭 58. 11. 1

(ウ) 史跡名勝天然記念物

(国指定)

区分	名称	位置	指定年月日
特別天然記念物	カモシカ	地域を定めず指定	昭 9. 5. 1 天然記念物指定
			昭 30. 2. 15 特別天然記念物指定
特別天然記念物	ライチョウ	地域を定めず指定	大 12. 3. 7 天然記念物指定
			昭 30. 2. 15 特別天然記念物指定
天然記念物	ヤマネ	地域を定めず指定	昭 50. 6. 26

(県指定)

区分	名称	位置	指定年月日
長野県指定天然記念物	ベニヒカゲ	地域を定めず指定	昭 50. 12. 24
長野県指定天然記念物	クモマベニヒカゲ	地域を定めず指定	昭 50. 12. 24
長野県指定天然記念物	コヒオドシ	地域を定めず指定	昭 50. 12. 24
長野県指定天然記念物	ホンドオコジョ	地域を定めず指定	昭 50. 11. 4
長野県指定天然記念物	ブッポウソウ	地域を定めず指定	昭 60. 7. 29
岐阜県指定天然記念物	巖立	岐阜県下呂市内	昭 32. 12. 19

3 公園区域

御嶽山国定公園（仮称）の区域を次のとおりとする。

(表1：公園区域（陸域）表)

都道府県名	区 域	面積 (ha)
長 野 県	木曽郡王滝村内 国有林木曽森林管理署 2326 林班から 2372 林班まで、2418 林班から 2420 林班まで、2423 林班、2426 林班から 2430 林班まで、2437 林班、2438 林班、2440 林班、2445 林班から 2448 林班まで、2452 林班、2453 林班、2587 林班から 2590 林班まで、2592 林班から 2654 林班まで、2656 林班から 2727 林班まで、2729 林班から 2788 林班まで、2790 林班、2804 林班から 2808 林班まで、2810 林班及び 2811 林班の全部 木曽郡王滝村 黒石原及び三浦貯水池の一部	11,663
	木曽郡木曽町内 国有林木曽森林管理署 801 林班から 883 林班までの全部	
	木曽郡木曽町 開田高原西野及び三岳の各一部	7,123
	小 計	18,786
岐 阜 県	高山市内 国有林飛騨森林管理署 1184 林班から 1189 林班まで、1191 林班、1194 林班から 1202 林班まで、1237 林班から 1239 林班まで、1241 林班から 1248 林班まで及び 1250 林班から 1254 林班までの全部並びに 1190 林班及び 1192 林班の各一部	2,077
	下呂市内 国有林岐阜森林管理署 64 林班から 88 林班まで、90 林班から 92 林班まで及び 94 林班から 134 林班までの全部並びに 46 林班から 63 林班までの各一部	
	下呂市 小坂町落合の一部	7,413
	小 計	9,489
合 計		28,275

注：端数処理のため、合計が合致しない場合がある。